１　文献名
『精義百年史』
２　学校名
精義小学校
３　災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
４　記述の概要
（１）雨や風、地震などの様子
（２）学校内や地域の被害の状況
桑名市全市にわたって、甚大な被害を受けたが、特に他地区にくらべて低地にある本校（精義小）は、浸水おびただしく、校舎は半壊、備品類は一切浸水破損し、すべて使用不能となった。過去十一年間に整備、施設された備品等は、みんな廃物となった。(P28) 春日神社大鳥居も無残な姿となった。(P30、写真) 公簿と書類も全部水浸しになった。大強風で鉄のポールも飴のように曲がった。(P32) 校庭には、鯉や金魚がたくさんおよいでいた。（台風通過後も）減水はしたが、満潮のたびに、水が窓をこえた。(P33) 学区の道路は、まるで運河のようになった。(P35)
（３）復旧の様子
すぐさま、PTA や学区の人々に高学年の児童たちも加わって、毎日毎日、後始末に全力をかたむけ、労力奉仕がつづいた。(P28)
（４）体験談
水がふえてきたので、父に上げてもらい、屋根の上でみんながまたがって、ぶるぶる雨と風にたたかれていた。（台風の翌日の）朝、屋根からのぞくと、どろ水の中に材木やいろいろな物がたくさんういていた。十一時頃になって、洗たく場の屋根に木をわたして、屋根づたいで近所の二階にひなんさせてもらった。(P29) 「ゴボゴボ　ブクブクブク」と水の音がした。「水が来た。」と大声でだれかがいって、ゆか下までたくさんの水がきた。(P30)
（５）教訓など
（６）その他